

豊門会館の設立と様相について

駿河小山、富士紡績の建築 その1

正会員 山田由香里 1*
同 西 和夫 2**

富士紡績株式会社 駿河小山 豊門会館
六合山荘 森村橋 和田豊治

はじめに

明治 29 年（1896）駿河小山（静岡県駿東郡小山町）に設立された富士紡績株式会社は、富士山の豊富な水源を動力に工場を第 6 工場まで拡充させ、伴って山間の地形を活かした水路・取水口・発電所を整備した¹⁾。また工場や発電設備だけでなく、大正 14 年（1925）には、従業員と地元住民の福利厚生を目的に財団法人豊門会館を設立し、建物や庭園などを整えた²⁾。

小山町は、2004 年 8 月に富士紡績から豊門会館の建物の寄贈を受け、現在、公園として一帯を整備する計画を進めている。計画策定にあたって、建物の調査依頼を受け、調査を行った³⁾結果、これらの建物が設立当時の様相を良好に伝えること、また、近代財界人の事績が留められていることが明らかになった。以下、報告する⁴⁾。

1. 小山町と富士紡績、そして豊門会館

小山町は、静岡県の北東端に、神奈川・山梨両県に接して位置し、富士山頂までを町域に含む。町の近代化は、富士紡績の歩みと一致し、概観は以下になる⁵⁾。

明治 26 年、富士山に水源を發し豊富な水源を有する鮎沢川と須川の合流する一帯を工場用地として買収開始。28 年、富士紡績株式会社発起を森村市左衛門（1839～1919）や富田鉄之助（1835～1916）らの連名で農商務大臣に出願。29 年に認可を受け会社設立。30 年に建築起工式挙行。31 年に運転開始。しかし、経営は順調ではなく、創業まもなく経営立て直しを迫られ、その期待を日比谷平左衛門（～1921）と和田豊治（1861～1924）が受けた。

豊治が、明治 34 年に工場長に就任すると経営改善が進み、38 年からは事業拡大が行われ、東京・愛知・和歌山・香川・愛媛・大分などにも新工場が建設された。大正 12 年の関東大震災で小山工場は被害を受けたものの、速やかに復興が進められた。

豊治は、豊門会館の設立にも深く関わった。『財団法人豊門会館ノ概要』⁶⁾によると、先覚者たちの遺志に沿い、地域の教育・娯楽・保健・修養の施設として財団法人を組織し施設を作ったもので、その名称は小山町の発展に欠くことのできない、和田豊治と森村市左衛門・浜口吉右衛門・日比谷平左衛門の三門に因んでいる。大正 12 年 5 月に財団法人設立申請、内務大臣の許可を得て 13 年 8 月に登記。14 年 12 月に本館落成、15 年 5 月 16 日には開館式が挙行された⁷⁾。

2. 豊門会館の立地

豊門会館は、町役場の北側、須川と野沢川に挟まれた南斜面の高台に立地する。樹叢に囲まれた敷地は、西側に門を開き、園路を進んだ敷地東側に、本館・西洋館・噴水泉・各種記念碑が建てられている。

大正 12 年の設立申請によると、「近傍中最も景勝ノ地ヲ占メ緑蔭清流」⁸⁾の場所を選んだという。同申請には、「山間僻地ノ地トシテ平坦ナル地面ニ乏シキヲ以テ会館所有ノ広場ヲ（中略）公開シ運動競技ノ為メニ使用」とあり、開館式に配布された『財団法人豊門会館設備概要』にも、土地総面積 13,200 坪の内訳に会館付属公園・児童遊園地・運動場・住宅予定地・山地が紹介されていることから、元来は、高台の敷地だけでなく、町役場までの斜面全域を敷地とした⁹⁾（図 1）。

これらの敷地獲得には当時の町長室伏完が尽力し、樹木・置石等は町民有志の寄贈によるものであった¹⁰⁾。また、町役場前から本館までの道路は、豊門会館設立にあたって建設されたもので、和田豊治に因んで「和田坂」と命名されている¹¹⁾。



図 1 豊門会館配置図 大正 15 年 5 月当時の状況

開館式に配布された『財団法人豊門会館設備概要』の付図。点線は予定建物。西洋館はまだなく、その後公会堂と書き入れられた場所に建つ。括弧は書き加えた。現在、運動場は小山中学校敷地。

3. 各建物等の様相

3-1. 本館

本館は、豊門会館のメインの建物であり、和館と洋館からなる近代和風建築である。明治 42・43 年頃に東京向島に和田豊治自邸として建設後、大正 14 年に移築された。この建物の詳細については、別稿で述べる¹²⁾。

3-2. 西洋館（旧豊門青年学校）

富士紡績が私設した豊門青年学校の建物であり、本館から遅れて着工し、昭和 5 年までには完成した¹³⁾。木造 2 階建て、スレート葺き寄棟造で、下見板張り、正面中央に塔屋を配す（図 2 左）。その外観は、噴水泉や大きな 2 本のヒマラヤ杉とともに、瀟洒な雰囲気を出す。

現在の間取りは、社員寮にするために後年改変したもので、個室に間仕切られ、窓や扉の位置が変わっているが、玄関ホールや食堂、階段吹き抜け、サンルーム、ベランダなどは当時の様相を留めている。小屋組みは、トラス構造で、木骨トラスと鉄筋で構成する。

3-3. 和田君遺徳碑

碑文に「大正十四年十二月、静岡縣駿東郡小山町民建之」とあり、豊治の功績を称えて、小山町民が大正 14 年に設立した。台座の大きさは 150cm 角、高さは 300cm で、肌理の細かい良質な花崗岩で作られている（図 2 右）。碑文に「桂五十郎撰、喜多貞吉書、正三位勲一等子爵澁澤榮一篆額」とあり、撰文は漢学者の桂湖村（1868～1937）、書は大学者で 1926 年に『和田豊治伝』を編輯した喜多貞吉、篆額は澁澤榮一（1840～1931）、デザインは朝倉文夫（1883～1964）¹⁴⁾である。

3-4. 工場長宅、六合山荘

六合山荘は、和田坂上り口山側に立地する。初代富田鉄之助（明治 29 年就任）に始まり、豊治など代々の工場長が住んだ（図 3）。鉄之助によって敷地が明治 30 年 5 月 25 日に登記されており、このときには完成していたと判断される。六合山荘の名称は、小山町合併以前の六合村にちなみ、勝海舟（1823～1899）が名づけた¹⁵⁾。

木造平屋建てで、規模は梁間 4 間半に桁行 6 間、四周に下屋庇を巡らす。6 尺を 1 間とする芯々設計で、柱の

太さは 3 寸 7 分角、玄関と台所の部屋境には 5 寸 5 分角の大黒柱が立つ。この建物は、近隣の民家を移築したものと言われており¹⁶⁾、『静岡県の民家』（静岡県教育委員会、1973）に収録された小山町の渡辺武夫氏宅（19 世紀初頭）に部屋の構成や規模が類似することから、建設年代はさらに遡る可能性もある。庭園も建物と同様に、風趣を感じるように作庭されている。

おわりに

大正 15 年、昭和 10 年の敷地配置図を見ると、豊門会館は、建物だけでなく庭園も一体に計画されており、今も園路や緑地が当時の様相を良好に留めている。設立後 80 年経過して樹木が育ち、緑豊かな優れた景観を形成する。近くの鮎沢川には明治 39 年架橋の森村橋¹⁷⁾も残り（図 3 右）まとまった範囲に、近代和風建築・学校・民家・鉄橋と、多様な建築が現存する。いずれの建築も、往時の富士紡績の活況を反映し、また近代財政界の争々たる人物の事跡が留められ、高い歴史的価値を有する。

これらの建築は、現在、国登録文化財に申請中であり¹⁸⁾、今後進められる公園整備の重要な核になっていくと考える。また、富士紡績から小山町に寄贈された約 3300 点に及ぶ歴史資料の整理目録化が最近町によって行われた。これら資料の分析を進め、往時の歴史背景について明らかにする予定である。調査に関して、小山町都市整備課・生涯学習課にお世話になった。記して感謝したい。

[註] 1) 『富士紡績百年史』上巻、富士紡績株式会社、平成 9 年。『静岡県の近代化遺産』静岡県教育委員会、2000。2) 註 1 に同じ。3) 調査は、財団法人都市計画協会の「まちづくり専門家派遣」制度を通じて、小山町都市整備課から山田が依頼を受けた。調査は 2004 年 9 月に実施し、小笠原徳明（神奈川大学日本常民文化研究所委託研究員）吉池美奈・野地保広（神奈川大学大学院工学研究科博士前期課程）が参加した（肩書きは当時）。4) 本稿の一部は以下で報告した。山田『静岡縣駿東郡小山町 富士紡績関連施設 豊門会館（旧和田豊治家住宅）・豊門青年学校・六合山荘・森村橋など 建造物調査報告書』（2004 年 10 月）山田・西「大分県中津出身実業家和田豊治の東京向島自邸、現駿河小山・豊門会館の調査研究」（日本建築学会九州支部研究報告第 44 号、2005 年 3 月）。5) 註 1 『富士紡績百年史』および、『小山町史』による。6) 『小山町史第五巻 近現代資料編』に収録。7) 『和田豊治伝』喜多貞吉編輯、和田豊治伝編纂所、1926。8) 富士紡績歴史資料「財団法人豊門会館設立許可申請」「財団法人豊門会館事業計画書」大正 12 年 5 月 7 日。9) 現在、運動場は小山中学校になり、児童遊園地には戦没者忠霊塔が建てられている。10) 富士紡績歴史資料「豊門会館寄贈樹木類調」大正 15 年。11) 「和田坂、大正十五年五月竣工」の石碑が嵌められている。12) 「豊門会館本館（旧和田豊治向島自邸）について 駿河小山、富士紡績の建築 その 2」2005 年度日本建築学会学術講演梗概集。13) 昭和 5 年 6 月 2 日に撮影された「天皇陛下静岡県へ行幸の御侍従子爵黒田長啓氏を小山工場に御差遣」と題する写真に、確認できる。14) 『和田豊治伝』に「規模の結構、装置の考案は美術界の大家朝倉文夫」とある。15) 軒下に海舟の落款をもつ扁額が掲げられていた。現在豊門会館本館に収蔵。16) 『小山町史』。17) 年代は橋脚プレートによる。設計者は秋元繁松、製作は株式会社東京石川島造船所。創業期に尽力した森村市左衛門を記念し、10 周年に合わせて第一・二工場入口に架橋された。現在、両工場はすでになく、富士紡績の創業の地を示す存在である。18) 六合山荘を除く。



図 2 西洋館外観と断面（左）、和田君遺徳碑（右）



図 3 六合山荘外観と平面図（左）、森村橋（右）

* 平戸市教育委員会 技師・工博

** 神奈川大学工学部教授・工博

* Research Engineer, The Hirado City of Education, Dr.Eng.

** Prof., Faculty of Engineering, Kanagawa University, Dr.Eng.